



特集 日本近代郵便の父

ひそか 前島密 生誕190年



前島密

(1835~1919)

「若き日の前島密の肖像画」(前島記念館所蔵)

■問合せ…文化振興課 (☎025-520-5628)

今年、「日本近代郵便の父」といわれる前島密が生まれてから190年です。今号では、津有区下池部出身で日本の近代化に大きく貢献した密の功績と、市内での顕彰の取り組みについて紹介します。

詳しくは



前島密年譜
(日本郵政)

前島密ってどんな人？



医師を目指していた少年時代

前島密(幼名:上野房五郎)は1835年(天保6年)、下池部で生まれました。高田藩の藩医であった叔父の影響で医学を志した密は、12歳になるとオランダ医学を学ぶため、一人江戸に旅立ちました。江戸では知り合いもなく、飢えと寒さに耐えながら勉学に励みました。



人生の転機となった「黒船来航」

1853年(嘉永6年)の黒船来航は密に大きな衝撃を与え、日本は西洋の技術や制度を学び、「近代国家を目指すべきだ」と考えました。そのために、函館から九州まで自分の足で歩き、蘭語、英語、機関学や測量術、銃砲、用兵学など、広い分野の学問や知識を習得しました。



密と新時代

1869年(明治2年)、密は明治政府から出仕を要請され、大隈重信が主導する民部省の改正掛に勤めることとなりました。改正掛では、渋沢栄一を中心に旧来の制度を改革し、近代国家を建設するための企画立案が行われ、通信や交通など現代社会の基盤となっています。

詳しくは



前島密
(日本郵政)

前島密の功績を知ろう

郵便制度を創設

密が残した功績の中で最も有名なものが、郵便制度の創設です。密はイギリスで郵便事業を見聞してきた経験を生かし、明治初期に日本の近代郵便制度を創設しました。全国の人々が手紙や情報を効率よくやり取りし、地域間の連携が進む重要な基盤を築きました。また、「郵便」「切手」「はがき」という名称も選定しました。



他にも多くの分野で活躍

- 郵便為替、郵便貯金制度の導入
経済の拡大、国民生活のために制度を導入
- 陸・海運会社の設立
今の日本通運(株)や日本郵船(株)の土台となる会社を設立
- 鉄道の敷設の立案
日本初の鉄道計画書を策定。北越鉄道の社長も務める
- 新聞事業の育成
郵便で配達する新聞を創刊。育成のために新聞事業を保護
- 国語国字の改良
漢字の廃止を建議。国語調査委員として国字の改良に尽力など